

# 「市民向け講座」開講によせて

ふと、考えることがあります。人はどうして学びを続けるんだろう。

毎年、妙に気持ちが高ぶるころがあります。凜とする正月。年度が変わり、暮らしに変化が生まれる4月。あたらしい「なにか」をはじめようと身構えるのは、きまってこのころです。

「なにか」の代表格は、語学学習であったり資格取得であったり。学びとは違いますが、日記もそうでしょうか。「禁煙の誓い」なんというのも、かつてはよく耳にしました。自身振り返ってみると、残念なことに多くが道半ばで挫折。それが「年中行事」になってしまいました。

学びの場でまず思いつくのは、学校です。その学校に、自分の教室に、通えなくなつた女子中学生と話をしたことがあります。自宅で過ごす時間が長い彼女ですが、「高校生になつたら」と、気持ちは前を向いていました。

高校進学後、「あの子はいま、学校を本当に楽しんでいます」と、お母さんが教えてくれました。

自分の気持ちをつまく伝えられない高校生とメディアリテラシーについて考えたときのことです。沈黙が続きがちでしたが、自分の考えを、懸命に伝えようとしてくれた姿は記憶に残っています。

二人とも不安を抱えていただろうと思います。それでも、学ぶことはあきらめていませんでした。

社会に出ても学び続ける人がいます。仕事に生かす、キャリアアップ。文部科学省は2022年（令和4年）6月、「職場における学び・学び直し促進ガイドライン」を策定しました。また、知識や教養を深めたり、趣味の幅を広げたりすることを目指す人も少なくありません。さまざま理由で就学期に勉強から離れざるを得なかった人たちは、夜間中学で学びを取り戻しています。「市民向け講座」は、学びたい、学びを続けたい、そう願

う市井の人のそばにありたい。名称にはその思いを込めました。

3年余りの新型コロナ禍は一時期、学ぶ機会をも奪いました。当たり前にできていたことが、実は当たり前なことではなかった。感染症の拡大は、いまを大切に生きる意味について考えることを迫りました。

社会は明るさを取り戻してきています。季節は一巡し、雪は去り、4月のあたらしい光が暮らしを照らします。「年中行事」ではない「なにか」が、はじまりそんな予感がしませんか。

学ぶことを、あきらめないでください。考えることを、やめないでください。

「市民向け講座」がはじまります。

（北翔大学地域連携センター）